

県民保協たより

発行所 一般社団法人岡山県民間保育所協議会調査広報委員会 印刷所 二華園印刷 ☎ 086-526-6633



「まびふれあい公園」令和6年7月3日開園（倉敷市）

翔



日本中が歓喜に湧いた第三十三回オリンピック競技大会が、七月二十六日～八月十一日の期間で、世界で唯一無二の都市、フランスの首都パリで開催されました。全ての会場が、アスリートや観客、テレビ視聴者にとって壮観で、見応えのある舞台でした。追加四競技を含む三十二競技、三百二十九種目で行われました。日本は、金二十個を含む四十五個のメダル獲得数でアメリカ、中国に次ぐ第三位と大健闘でした。また、日の目を見る事が少なかった種目で次々と快挙が誕生。努力が結実して新たな可能性を示したのではないのでしょうか。その半面で、パリ五輪での行き過ぎた内容の誹謗中傷の投稿に関しては、本当に残念な思いです。選手や関係者を守る為にスポーツの真の価値が人々の生活の重要な部分をなして、持続可能性を守りながらも地域に素晴らしい成果をもたらすことを望みます。

パリパラリンピックも八月二十八日の開会式後十二日間の予定で、二十二競技五百四十九種目で行われて応援や観戦の為に日本中の人たちが、寝不足の日々が続いたのではないだろうか。人間の無限の可能性を感じたオリンピックが終わってからも、アスリートの皆さんは、引き続き新たな挑戦が始まり、また、四年後に私たちに素晴らしい感動を与えてくれる事を期待します。

延永 洋子

会費等値上げのお願い

会長 小松原 望

五月二十五日に開催した定時総会で口頭説明しました。当協議会は令和六年度末で公益目的財産を使い切り、計画通り、公益目的事業を終了します。

これに伴い令和七年度以降の事業の見直しを現在進めています。研修事業を廃止し、広報誌の発行を止めても、令和七年度は法人全体で約六百万円の赤字となることが見込まれています。

これまで事務局職員の人件費の一部を公益事業が公益目的財産を使って負担してきましたが、今後は全て民保協が負担することになります。

このことについて、昨年度から理事会で協議を重ねてきましたが、支出を減らすだけでは十分に対応できず、収入を増やすことが必要であるとの結論に至りました。そこで令和七年度から、民保

協の会費、共済制度の入会金、共済事業負担金の値上げをお願いしたいと思います。

すなわち、施設が負担する会費のうち施設の規模に依らない施設割りを千円増額して年間一万円に、共済制度に始めて加入する職員から徴収する入会金を四千円増額して五千円に、共済制度を維持するために使用している共済事業負担金を四百五十万円増額して年間千二百万円にしたいと考えています。なお、共済事業負担金は共済制度の運用収入から支出されています。

会費等の値上げについては、まず、岡山市、倉敷市、津山市の三地区で説明会を行い、その後、書面による臨時総会によって会員の皆さまのご承認を得たいと思います。

県民保協の最重要事業は共済制度の運営です。共済制度が末永く維持できるように努めますので、引き続き、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

県民保協の最重要事業は共済制度の運営です。共済制度が末永く維持できるように努めますので、引き続き、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

新型コロナや猛暑に対応した保育

コロナ禍における保育で学んだこと

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、二〇二三年五月八日に「五類」に移行し、全国的に減少傾向にあるが、引き続き警戒を呼び掛けている。(二〇二四年八月現在) コロナ禍での保育現場では、大きな不安をかかえながら、多くの変化と挑戦をもたらした。感染予防対策として、全職員がマスクをつけ、子どもたちは目からしか先生の表情をよみとることができなかった。

マスクをしていない普段の先生の表情から、たくさんさんの優しさや安心感を受けとっていたことがなかった。行事は、余儀なく縮小や中止になることもあり、毎年恒例だと思っていた行事について必要性を考えたり見直すきっかけにもなった。密を避けるため、個別や小集団の活動にて、個々の発達の様子や、集団では見られなかった表情をより深く読みとることができ、じっくりと一人ひとりと関わる時間が多く持てるようになり、子どもたちの情緒の安定にもつながった。また、リモートワークの導入が進み事務作業の効率化となり、研修や会議にも積極的に活用されている。大変な状況のなかで保育を行いながら得た知識や経験は、これからのよりよい保育に繋げていこうと工夫を積み重ねている。

古都こども園

園長 岸上 美和

猛暑の中での保育

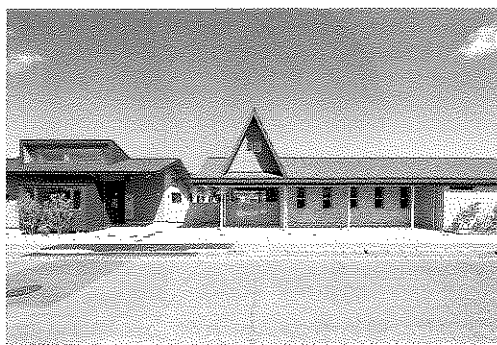
コロナが五類になり、制限のあった生活からいつもの日常に戻りつつあります。子どもたちは毎年、夏ならではの遊びを開放的にダイナミックにそしてふんだんに楽しんでいます。しかし今年の夏も猛暑日が続く、熱中症アラートや暑さ指数を確認して戸外へ出ることが必須となりました。園庭では、寒冷紗やミスト等での対策や戸外に出る時間帯や長さを考えていきます。

き、じっくりと一人ひとりと関わる時間が多く持てるようになり、子どもたちの情緒の安定にもつながった。また、リモートワークの導入が進み事務作業の効率化となり、研修や会議にも積極的に活用されている。大変な状況のなかで保育を行いながら得た知識や経験は、これからのよりよい保育に繋げていこうと工夫を積み重ねている。

子どもたちは、汗をいっぱいかきながらも目を輝かせ夏を満喫しています。コロナだけでなく、様々な感染症が流行った予想以上の暑さになつたりと日々の対策が余儀なくされますが、子どもたちのために安心していききたいと思っています。

昭和保育園

園長 浅尾 明美



大元こども園 (2024年4月1日開園)

岡山市北区大元上町9-22

社会福祉法人 東光会 定員 175名

50年の歴史ある「大元幼稚園」が民営化され、幼保連携型認定こども園「大元こども園」として生まれ変わりました。公立幼稚園の伝統を受け継ぎながら、新たな園づくりに取り組んでいます。

園長 太田 哲生

新規加入園紹介

つきのさとこども園 (2024年4月1日開園)

岡山市東区金岡西町578-5

社会福祉法人 ちとせ交友会 定員 110名

「西大寺南幼稚園」と「金岡保育園」の民営化を受け、幼保連携型認定こども園として再出発しました。地名の「都紀郷（つきのさと）」を園名にかかわるすべての人のHomeとなる園を築いていきます。

園長 河本 律子



せいびキッズ小規模保育園 (2024年4月1日開園)

井原市高屋町119

社会福祉法人 セイビ福祉会 定員 12名

社会福祉法人セイビ福祉会施設内に開園しました小規模保育園です。ゆったりとした空間で、思い思いの活動や楽しい経験を積み重ねることで、豊かな「こころ」を育み、保護者の皆様の子育てを応援していきたいです。

園長 國矢田 裕美

新任園長紹介



〈岡山市〉

たんば・つばみ保育園
窪田由美先生



〈岡山市〉

第四吉備保育園
槌田有希先生



〈岡山市〉

深砥保育園
金丸裕美先生



〈岡山市〉

認定こども園白ゆりの丘
和田佑有子先生



〈岡山市〉

弘西こども園
渡部千永子先生



〈岡山市〉

おおふくこども園
板野梓歩先生



〈倉敷市〉

連島こども園
久保玉美先生



〈倉敷市〉

すぎのこ認定こども園
笠原悦子先生



〈倉敷市〉

しおかぜ認定こども園
廣永奈央子先生



〈倉敷市〉

帯江小規模保育園
小林恵子先生



〈岡山市〉

御南認定こども園
高橋敏之先生



〈岡山市〉

なのはなこども園
松岡芳子先生



〈岡山市〉

当新田ちとせ保育園
橋永浩治先生



〈早島町〉

早島保育園

大森紀美子先生



〈井原市〉

せいび四季が丘保育園

浅野嘉之先生



〈津山市〉

二宮保育園

岩元里子先生



〈津山市〉

城北保育園

八木信介先生



〈倉敷市〉

小規模保育園もくもく

榎本淑美先生



〈倉敷市〉

ひまわり認定こども園

芳賀奈央子先生



〈倉敷市〉

連島東保育園

鈴木佳代子先生

再任園長紹介

園長先生に再任されました。

・ノイエ保育園

吉田 佳世子 先生

・せいびキッズ小規模保育園

國矢田 裕美 先生

兼任園長紹介

・ふたばこども園

・こじかこども園

宮川 洋子 先生

転任園長紹介

太田 哲生 先生

おおふくこども園
大元こども園へ

福井 泰朋 先生

深砥保育園へ
ひばり保育園へ

西山 幸子 先生

たんぽぽ・つばみ保育園
たんぽぽ保育園へ

河本 律子 先生

当新田ちとせ保育園
つきのさとこども園へ

尾崎 恭子 先生

帯江小規模保育園へ
ひまわり乳児保育園へ認定こども園に
移行しました

岡山市

順正保育園へ
じゅんせい認定こども園

(幼保連携型)

岡山市

福田保育園へ
幼保連携型認定こども園

福田こども園

(幼保連携型)

倉敷市

浦田保育園へ
保育所型認定こども園

浦田保育園

(保育所型)

倉敷市

琴浦中保育園へ
琴浦中認定こども園

(保育所型)

倉敷市

笹沖保育園へ
笹沖認定こども園

(保育所型)

倉敷市

ちやや保育園へ
ちややこども園

(保育所型)

笠岡市

若竹保育園へ
若竹こども園

(幼保連携型)

総社市

山手保育園へ
やまて認定こども園

(幼保連携型)

高梁市

落合保育園へ
おちあいこども園

(幼保連携型)

表紙のことば

「まびふれあい公園」

平成三十年七月に発生した西日本豪雨で真備地区は甚大な被害を受けた。これを記念して防災復興公園(仮称)の建設を決め、今年七月三日に「まびふれあい公園」が完成した。

この公園は、防災教育の場だけではなく、災害時の救援活動や一時的避難の場として整備された。中央の「竹のゲート」を囲んで、あそび・しばふ・じゆう・イベントの各広場と駐車場が配置されている。

竹のゲートは、通路を挟んで学びの部屋と事務所・防災備蓄倉庫が配置されている。建物の壁は竹で覆われており、真備らしさを感じさせる。

災害時には一避難場所として四百台の車が収容できる他、ヘリポートにもなり、防災備蓄倉庫には三百人分の飲料水や毛布を備蓄している。

防災は、自助・共助・公助の三要素からなるが、学びの部屋では真備で起こった被害を学びつつ、自助・共助の必要性を感じる事ができると思う。

小松原 望

編集後記

新型コロナウイルス感染症が五類感染症に移行となつて一年半が経過しました。各所で行事が復活されることにより賑わいが戻って参りました。保育園でもマスクなしの子ども達と先生とのコミュニケーションは健全な心身の発達になります。一方で昨年以上の猛暑でプールをはじめ屋外での活動に制限を強いられて葛藤の日々でもありました。

色々な場面面で変化が著しい状況でも、たくましく成長している子ども達と多くの保育制度の変化に混乱がないことを願うとともに、本来の秋の訪れを心待ちにしたいと思います。

最後になりましたが、ご多用の中、原稿をお寄せ頂きました皆様様に心よりお礼申し上げます。

浅野 嘉之

この機関誌は、共同募金より一部助成を受けています。

